

第4回日本DCD学会 学術集会
(ウェブサイト用抜粋記録)

学会テーマ	DCDとスポーツ
会期	2021年4月24日(土曜日)・25日(日曜日)
会場	青山学院大学青山キャンパス 本多記念国際会議場
大会長	古荘 純一(青山学院大学)
実行委員長	澤江 幸則(筑波大学)
主催	日本DCD学会
後援	厚生労働省・スポーツ庁・東京都 日本小児科学会・日本小児精神神経学会・日本小児科医会 毎日新聞社・読売新聞社・朝日新聞東京総局・東京新聞 昭和大学医学部小児科同門会・青山学院大学
大会事務局	第4回日本DCD学会学術集会事務局 〒132-0021 東京都江戸川区中央4-20-18 米冨ハイツ 1F 認定NPO 法人トラッソス内 第4回日本DCD学会学術集会事務局 Email: japan.dcd.tokyo@gmail.com

大会長挨拶

2020年4月25日・26日、青山学院大学にて、第4回DCD学会東京大会を開催させていただくことになり準備を進めてまいりましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で1年延期といたしました。東京オリンピック・パラリンピック大会も1年延期されましたが、あいにく感染の収束はまだ見通せない状況です。そのような中でも、細心の注意を行いながら2021年4月24日・25日にハイブリッド形式（会場とオンラインの併用）で開催することになりました。

本学会のテーマは、日常生活のなかでの理解と支援について考える場、オリンピック・パラリンピックの開催年ということから、「DCDとスポーツ」としました。スポーツ場面で苦しさを感じ、参加することに否定的な子どもや成人、そのなかには、いわゆる身体的「不器用さ」を主訴とするDCDが起因している場合があります。日本において、社会的な認知および適切な支援がはじまり浸透していくことは、普遍的なテーマであり、引き続き同じコンセプトで準備を進めております。

もう一つのコンセプトは、「医療と教育とのコラボレーション」です。実際に、学校教育場面でもDCDのある子どもが生活上困り、支援が必要なことは言うまでもありません。そのため学校教育関係者にDCDの理解を促すことは必要です。さらに、診断や治療のスタートは医師であり、特に小児科医がもっとも関係しますが、DCDの概念も、医療の現場に浸透しているとはいえません。本学会を通して、DCDは発達障害の1タイプであるということ、医療、教育関係者に広く認識される端緒になればと考えています。

主なプログラムは、ワークショップとして、不器用さのある子どもへの指導の実際をデモンストレーションしていただくことになりました。そのほか教育講演、シンポジウムのほか、市民公開講座では、「広げようDCDの理解と支援の輪」というタイトルで、マスコミ、スポーツ、支援現場で活動されている方々にお話をいただき、意見交換を予定しています。

一般演題では、若手の研究者や臨床家に積極的に発表していただくように奨励賞を準備しました。また発表は、オンラインでの参加者とも意見交換ができるように、スタッフ一同で、試行・工夫をしております。

感染症対策のため、参加会場は人数を制限し、同時にオンラインで参加できるようにいたします。会場参加の方には、体調管理や検温をお願いするなどのご負担をおかけすることになり恐縮です。出入り口、座席の管理など多くの方が集中することを避け、懇親会も中止となるなど、情報交換、人との交流も制限されてしまいますが、長い目で、次回以降の大会に受け継がれていくことになると思います。

感染拡大状況によっては完全オンライン開催となるかもしれませんが、不器用さをかかえる人たちの支援に携わる人びとの勉学に勤しみつつも有意義で楽しいひと時となりますよう鋭意準備を行っております。大勢の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

第4回日本DCD学会学術集会大会長
古荘純一（青山学院大学教育人間科学部 小児科医）

大会プログラム概要

基調講演

4月24日(土) 13:05-14:05

発達障害の1タイプとしてDCDの位置付け

古荘 純一(青山学院大学教育人間科学部:大会長)

座長:辻井 正次(中京大学:日本DCD学会理事長)

教育講演

4月25日(日) 9:00-10:00

スポーツ庁における障害児・者スポーツ振興

助川 隆(スポーツ庁健康スポーツ課障害者スポーツ振興室 室長)

座長:澤江幸則(筑波大学体育系)

シンポジウム

4月25日(日) 11:15-12:50

DCDとスポーツ:不器用な子どもにとってのスポーツの意味

シンポジスト

医学的視点 黒川 駿哉(慶應義塾大学医学部精神・神経科)

学術的視点 樋口 貴広(東京都立大学人間健康科学研究科)

実践的観点 篠原 里奈(ジュニアクラブ蔵本)

座長:宮地 泰士(名古屋市西部地域療育センター)

ワークショップ

4月24日(土) 15:10-17:20

不器用さのある子どもへのスポーツ・運動指導の実際

デモンストレーター

スポーツ:サッカー

FC東京・認定NPO法人トラッソス

ファシリテーター:吉澤 昌好(認定NPO法人トラッソス)

スクールスポーツ:準備運動・なわとび・ボール投げ

筑波大学アダプテッド体育・スポーツ学研究室

ファシリテーター:吉田 博子(東京都立中野特別支援学校)

スポーツプリパレーション:靴ひも結び・着替え

島田療育センターはちおうじ リハビリテーション科 OTチーム

ファシリテーター:加久 翔太郎(聖マリアンナ医科大学病院)

スポーツレコーディング:書字・微細運動

岩永竜一郎・東恩納拓也(東京家政大学健康科学部)

ファシリテーター:吉岡 尚美(東海大学体育学部)

ジェネラルナビゲーター:北洋輔(一橋大学森有礼高等教育国際流動化機構)

オーラルセッション I

4月24日(土) 14:15-14:50

臨床研究・症例検討

座長：吉岡 尚美（東海大学体育学部）

オーラルセッション II

4月25日(日) 10:10-11:05

若手推奨枠

座長：加久 翔太郎（聖マリアンナ医科大学病院）

ポスターセッション

終日掲示 ポスターブリッツ 4月24日(土) 13:40-13:50

ブリッツ座長：吉岡 尚美（東海大学体育学部）

市民公開講座

4月25日(日) 14:00-16:00

拡げよう、DCD の理解と支援の輪 —メディアと人との絆を通じて—

シンポジスト

小島 慶子（エッセイスト・元 TBS アナウンサー）

石川 直宏（FC 東京クラブコミュニケーター・元日本代表）

北 洋輔（一橋大学 森有礼高等教育国際流動化機構）

澤江 幸則（筑波大学体育系）

指定討論

内多 勝康（もみじの家・元 NHK アナウンサー）

司会

古荘 純一（青山学院大学人間科学部）

内多 勝康（もみじの家・元 NHK アナウンサー）

一般演題名

オーラルセッション I

4月24日(土) 14:15-14:50

- 運動嫌いにより介入が困難であった発達性協調運動障害の一症例
- 聴覚障害児におけるリズム能力とバランス能力の特性
- 描画課題における適応動作の予備的研究

オーラルセッション II

4月25日(日) 10:10-11:05

- 発達性協調運動障害を持つ幼児の感覚処理の問題と協調運動機能との関連
- カテコール-O-メチルトランスフェラーゼ(COMT)遺伝子多型が協調運動機能に及ぼす影響
- 高機能自閉スペクトラム症児の粗大運動発達と感覚処理特性の関連性

ポスターセッション

終日掲示 ポスターブリッツ 4月24日(土) 13:40-13:50

- 発達性協調運動障害が疑われる7~10歳の児童への週1回の課題に特化した運動遊びプログラムの効果
- 不器用さのある子どもの「ボールを捕る」技能を向上させる目的で介入した過程指向型アプローチ
- 幼児の不器用さと打点・なぞり課題の研究
- 運動が苦手な中学生の新体カテスト得点分布の特徴
- DCDを含む発達障害児のための全国ワークショップの取り組み
- 年長児における平仮名・片仮名視写能力に影響する発達特性の検討ー文字別における書字判読性の関連についてー

第4回日本DCD学会学術集会 実行委員組織

大会長 古荘 純一（青山学院大学）

実行委員長 澤江 幸則（筑波大学）

プログラム委員会

委員長	北 洋輔（一橋大学）
委員（準備委員会）	古荘 純一・澤江 幸則
委員（学会役員）	宮地 泰士（名古屋市西部地域療育センター） 柏木 充（枚方市立ひらかた病院）
委員（外部研究者）	奥住 秀之（東京学芸大） 鈴木 浩太（四天王寺大学）

事務局

事務局長	吉澤 昌好（認定NPO 法人トラッソス）
副事務局長	藤沼 光輝（認定NPO 法人トラッソス）
総務（情報・日程管理）	杉山 文乃（アスペ・エルデの会）
会計（予算／執行管理）	吉澤 昌好・藤沼 光輝
渉外（スポンサー管理）	吉澤 昌好・藤沼 光輝

広報委員会

委員長	吉岡 尚美（東海大学）
企画部門	吉田 博子（東京都立中野特別支援学校）
宣伝部門	
デザイナー	小寺 純子
SNS 担当	吉岡 尚美
web 担当	北 洋輔
チラシ担当	吉岡 尚美

プログラム運営

デジタル統括	北 洋輔
デジタルアシスタント	白川 由佳（一橋大学）
会場サポート	米田 英嗣（青山学院大学）
医療アドバイザー	加久 翔太郎（聖マリアンナ医科大学）